

2025 年 6 月 27 日

学校法人三幸学園
札幌ビューティーアート専門学校
校長 後藤 寿樹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 田口 佳美

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 田口 佳美（有限会社トゥルーウィル 代表取締役）
- ② 安西 勇輔（株式会社 Lim 代表取締役）
- ③ 小室 友里奈（株式会社 P・S・Q 営業本部長）
- ④ 平野 あさみ（フリーランス メイクアップアーティスト 5 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 27 日（会場 札幌ビューティーアート専門学校 701 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 野村 智子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 田口 佳美

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【2024 年度目標】

- 1) 退学率低減
- 2) 国家試験合格率向上
- 3) 就職率向上

・退学率：9.9%→8.3%(1.6ポイント減)

2023年度より退学率軽減出来た主な理由は、ユナイトルームや ACE など新たな取り組みを実施したものが定着してきたことが挙げられる。2023年度から始めた取り組みのため、初年度は試行錯誤しながらの実施だったが、2024年度は全教職員への定着も含めて実績に繋がった。

今後も学校としては生徒状況を見た上で、時代に合った教育を検討していかなければならない。

・美容師免許取得率：91.2%→91.3%(0.1ポイント増)

2023年度と変わらず、実技試験では衛生で不合格者が出たことが課題。筆記試験も座学内容の理解習得に苦戦した。国家試験直前対策の期間でも十分に補う事が出来ず、対策の実施方法に課題があったと考えられる。

・就職率：100%(±0)

内定100%の結果を出すことができたが、時期はもっと早く出来るように工夫が必要である。

② 学校関係者評価委員会コメント

・安西委員(美容科・トータルビューティー科について)

退学者について、どのような理由で退学する生徒が多いのか、どのような指導をしているのか。

・野村副校長(美容科・トータルビューティー科について)

退学理由には人間関係か目標喪失が多い。個別に対応していけるよう取り組んでいる。

・平野委員(美容科・トータルビューティー科について)

挨拶の元気さやリアクションができるのはビューティーアートの生徒のイメージ。現場にいた際も、卒業生が多かった。接客業につくからには、より挨拶などの第一印象を指導していった方が良い。

・小室委員(美容科・トータルビューティー科について)

ネイルコースの授業を見たが、美容科の生徒の方が元気がよい印象を受けた。

足を組んで授業を受けている。服装の乱れも感じる。

制服で勤務をしているため、学校ではどのように指導しているか。

・田口委員(美容科・トータルビューティー科について)

1年生から足を組むことが当たり前になっているため、指導をする必要を感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

社会のニーズをつかめる体制を整え学校の育成人材像および将来構造を更に検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

産学連携をより増やし、業界ニーズに合わせた教育内容を盛り込み進めていく。

教職員が業界のニーズを知る機会の場を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・安西委員(美容科・トータルビューティー科について)

一生懸命やっている印象を受けた。私は、通信で美容学校に通って、働きながら資格を取ったため、全日制の美容学生がどうかはわからないが、もっと派手な子が多いイメージだったが、意外と落ち着いていた。

・小室委員(美容科・トータルビューティー科について)

座っていても、おしゃれな子もいる。5年間で十数名採用しているが、卒業生の中でも足を組むのが癖になっている子がいる。現場でも課題で気になっている。姿勢が悪いとだらしく見えるため、美容の子であれば気にした方がよい。

・田口委員(美容科・トータルビューティー科について)

社会人としての指導を根底において、挨拶や姿勢などは改めて指導してほしい。

・平野委員(美容科・トータルビューティー科について)

美容現場にいた際は「学校は、なにやっているんだ」と思っていたが、学校現場に入ると難しさを感じた。そもそも学校に来させるところの指導からはじまる。厳しく指導していかないといけないと感じた。

・中村主任(美容科・トータルビューティー科について)

教員の指導に従う生徒が昔は多かったが、生徒の質も変わってきている。教員側も指導を我慢してしまっている部分もある。社会に出て成功してもらうことが大事なので、引き続き必要な指導はしていきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システム化は、取り入れているが全教員に浸透していない。

システム内容に課題を感じている

② 今後の改善方策

学校現場の声を情報システム部に情報として伝え、アップデートしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

特に、インターンシップに関して十分な受け入れ先の確保が課題である。

② 今後の改善方策

企業開拓や生徒への動機付けが必要。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・田口委員(美容科・トータルビューティー科について)

エステの卒業生はマナーの部分の課題はあまり感じない。エステは挨拶から施術に含まれているので、職種によって課題は異なる。競合の学校からも聞くのが生徒同士の問題が多くなっている。先生と生徒があだ名で呼びあうような学校は、先生が生徒同士の問題に入り込んでしまい、担任が辞めてしまったという話も聞く。

中村主任(美容科・トータルビューティー科について)

学校側としては、資格を取得し、就職させれば良いと思っているわけではなく、卒業後に退職報告を受けることが一番残念に感じる事なので、現場で成功できる生徒を育てていきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

2023年度より退学率軽減出来た主な理由は、個別最適化を考えた施策も取り入れて定着してきているためと言える。

ただ、退学者の主な理由は、目標喪失と人間関係なので、引き続き新たな対策が必要である。

② 今後の改善方策

生徒状況を見た上で、時代に合った教育を検討していかなければならない。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・安西委員(美容科・トータルビューティー科について)

厳しいことを言ったら折れてしまうということもあるかもしれないが、その子を思って言っているというのが伝われば折れることもないと思うので、コミュニケーションが大切だと思う。教育の仕方を仕組化するのは難しいので、手分けして向き合っていくしかないのではないかな。

・小室委員(美容科・トータルビューティー科について)

時代は変わったと思う。利益を追求したときに、目的を達成するために手法を変えていく必要を感じる。管理職の中でも今まで伝わっていたけど伝わらないという悩みを聞く。承認欲求が強い子が多いため、小さなハードルから設定して、承認してあげるようにしていきたい。優しいだけではなく、愛を持った厳しさが必要。

中村主任(美容科・トータルビューティー科について)

先生は生徒を、生徒は先生をあだ名で呼び、先生とLINEで連絡を取り合うことが普通だと思っている高校生が入学してくることも多い。どこから指導をすれば良いのかもわからない状況で、言葉を選びながら指導をしている。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

あらゆる理由で学習をしたい希望はあるものの、教室に入れない生徒が増加してきている。

不登校にならないための施策を開拓しているが、急な対応に戸惑う時がある。

② 今後の改善方策

人数増加時の環境整備や人員確保

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップ先の確保

② 今後の改善方策

企業開拓を積極的にすすめる

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

物価高騰により教材費などのやむを得ない値上げ等

② 今後の改善方策

お取引先様との連携をしっかりと行う

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

地域イベントやボランティアの取り組み強化

② 今後の改善方策

企業様との連携

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
学内で適切な体制が整備されているか	

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・田口委員(美容科・トータルビューティー科について)

今後社会で活躍できる人材として「物販の販売促進」ができる人を育ててほしい。スタイリストは髪を切ることが仕事でシャンプーを売ることが仕事ではなかったが、企業側として物販力を上げる生徒の教育をしてほしい。技術力＋物販力のあるスタッフが欲しい。学校の教育の一環でロープレなど、物販力を上げる授業を取り入れてほしい。

・野村副校長(美容科・トータルビューティー科について)

若い子たちの質が変わってきている中で、毎年同じ指導をしていても響かなくなっている。それでも美容業界の発展のために、学校も業界に貢献できる人材育成に尽力していきたい。